

## 平成25年度第2回秋田県入札制度適正化推進委員会の概要について

### 1 日時

平成25年12月12日（木）10:00～12:00

### 2 場所

ルポールみずほ 「ねむの間」

### 3 出席者

菅原佳典委員長、及川洋委員、千葉一明委員、家入昭彦委員、小西知子委員

### 4 審議事項

#### 【県発注工事に係る入札・契約手続の運用状況】

委員：秋田市の庁舎建設問題でもわかるとおり、建設資材の単価の高騰及び資材不足が顕著である。また、労働者の賃金についても県外と県内における差がまだまだあると聞いている。業者の方から単価について、上げてもらいたい等の要望があるものか。

事務局：県工事の設計単価と市場単価に乖離があるのではないかと、県議会の委員からも意見が出されている。県の単価は、全国共通の建設物価の単価を基にしているが、建設物価の単価もどうしても1ヶ月半から2ヶ月のタイムラグが生ずる。

ただし、公共工事では、単品スライドという制度もあり、受注者からの申出により、納入した時期の単価に合わせることもできる。

労務単価においては、県では平成25年4月1日から主要12工種について20%前後上げたところではある。ただし、秋田県は元が低いこともあり、被災地でも20数%上がっているため、被災地と同じとはならないが、青森県と山形県とは同じくらいである。

#### 【抽出案件（秋田建設部：県単道路改築工事）】

委員：当該工事の入札では参加申請後に、総合評価において加点される項目が多い企業が辞退している結果であるが、その辞退する要因は何か。

秋田：当該工事現場は渦に沿った道路の拡幅工事であり、施工における難易度が高いことから企業の判断によって回避されたものと思われる。

委員：説明では工事の難度が高いということだったが、難度が高ければ経費もかかり、落札率が高くなるものと感じられる。それが、反対の低いというのは矛盾を感じる。このようなことはよくあるのか。

事務局：一概には言えない部分であり、いずれにしても、入札に参加した企業の経営事情であったり、その企業の意欲によるものとし判断できない。

【抽出案件（平鹿農林部：亀福（一期）地区 公害防除特別土地改良工事）】

委員：当該工事の他に、亀福（二期）地区とあるようだが、同じような工事と考えていいか。

平鹿：工事の概要も同じであり、大きな違いは無い。

委員：いずれも総合評価であるが、二期地区工事の評価項目に地場産品リサイクル製品等という項目があって、なぜ、一期地区工事にはその項目がないのか。

平鹿：二期工事の水路にはコンクリートの既製品を使う工事となっているため、当該項目を設定している。一期工事では、それを使わないことから設定していない。

委員：評価項目は、どういう基準で設定されているのか。

事務局：総合評価落札方式で発注する工事における簡易型については、事前に評価項目を設定しており、当該工事に評価対象となる項目があれば、必ず評価項目とすることとなっている。意図的に評価項目から外すようなことはない。

委員：入札する業者が各工事の評価項目がわかるのは、どのタイミングか。

事務局：公告時点である。

委員：建設業者の地域貢献は重要と考えられるが、1点という配分は少ない感じもする。これらの点数配分は変わることはないか。

事務局：事前に決めているものであり、変わることはない。

委員：地域貢献の配点は他県と比較してどうか。秋田県は力を入れている方なのか。

事務局：東北管内で比較すると、青森県はほぼ同じであり、岩手県は5項目のうち3項目について合致している。福島県もボランティア活動を加点している。宮城県も大きく違いが無く、他県に無い項目として、東日本大震災での対応実績も評価している。

委員：秋田県も遜色のない評価と理解していいか。

事務局：はい。

【抽出案件（雄勝建設部：地すべり対策工事）】

委員：事後公表のモデル的試行とする基準はあるのか。

事務局：平成22年度から、建設部と農林部が発注する一般土木工事とほ装工事について、典型的な工事を対象として20件をあくまでも試行ということで行っている。以降、件数と発注機関を増やしていく予定である。

今年度は、総合評価落札方式の案件も行い、選定は発注者が抽出している。

委員：事後公表だと落札率を高くする要因と解釈していいか。

事務局：必ずしも高くなるとは言えない。案件ごとに要因があると思われるが、低くなるケースもある。

委員：事後公表にした方が、実勢の資材単価や労務費等を反映させるのではないかと思われる。今後拡大する方向であるのであれば、事後公表の結果を次回にでも報告してほしい。

事務局：了解した。

委員：低い落札率で契約することによって生じた予算を他の事業に使えるか。

事務局：財政課との調整次第となるが、年度内の計画もあり簡単にはできない。

委員：以前他県の方から耳にした話ではあるが、予定価格を出す際にあらかじめ歩切りをして、残った予算を他の事業に回すとも聞いたことがある。秋田県では歩切りをしているか。

事務局：一切していない。